

令和6年度
社会福祉法人こころの種福祉会
つくばトッポンチーノ保育園
つくばモンテッソーリアフタースクール

事業報告書

理事長三上恵子

＜令和6年度の総括「つくばトッポンチーノ保育園」＞

当法人創設10年の大きな節目を迎えた令和6年度も在園ご家庭の笑顔と共に過ごすことができたことをご報告申し上げます。令和5年度に新型コロナもインフルエンザが5類に分類されてから、さまざまな行事も従来のスタイル以上の進化を遂げ、今年度はすべての行事が集いあいの中、多くの人々と笑顔のふれあいによって「こころの種トッポンファミリー」としてのゆるぎない絆となったことをご報告申し上げます。

さて、常に保育運営は爆走そのものではありませんが、新たな時代は「保育園のみに子育ての下駄を預けられる時代」は終わりにしなければという実感です。「保育園が開いているから預けよう」というサービスに特化した時代が続けば保育園の運営は正常に機能することができないほど人手はいずれもギリギリです。保育園側の誠実さと共に、利用保護者の意識をいかに育むかが保育園運営の大きなカギにもなると考えました。

「保育園の利用」は在園児との誠実な絆の元でのみ誰もが安心して利用できる場となると確信しています。「子育ては大変な生業」です。だからこそ「辛い・苦しい」。では預けるだけでこれらの大きな課題は解決するのでしょうか。それはもちろん違います。我が子の幼児期を心に留めずにその後の我が子の支えとなることは大変難しいことです。そこで「我が子との距離を縮める発見」ができるようなメッセージや子育ての工夫、保育園での幸せなこどもの姿などありとあらゆる角度からのメッセージを設立以来10年発してきました。一人一人の人生の先に子育ての大きな喜びを実感して頂くために、どう子どもと向き合うか、皆が不安な時代だけに些細なことでも理解し合う仲間として新たな保育園の顔を生み出していきたいと願います。

さて、保育の工夫の中でご報告したいことは山ほどありますが、突出してお伝えすべきは、まずは個々に寄り添う「感染症対策」についてです。コロナに学んだ対策は緩和したもの、コロナ禍は今後の園の対策にかけがえのない経験となっています。今年度はまずは「視診」と「保護者と園とのこどもの体調の情報共有」です。保護者からの申し送りをベースにしつつ、保育中の体温の変遷及び視診で段階を踏んだ慎重な対応に留意しました。保護者は就労がある中なので、こどもの不調を連絡する際には保護者の立場を十分に配慮しつつ段階を経て連絡をしました。「働き方改革」の時代の中にあっても人手不足の折、誰しも簡単に仕事を離れることはできません。我が子の事と言え

ども「不調の連絡」は心象を害しやすい時代にもなっています。しかしながら発熱他一人の不調が集団の不調を招きかねない事態もあり、迅速慎重なやり取りが欠かせないことを日々痛感していました。そこでこのような事態の時こそ日ごろの保護者との信頼関係が重要なカギとなります。こどもの体調の変遷を的確に伝え、保護者の就労にも配慮しつつこどものためのお迎えを概ね快くご理解いただきました。日ごろの工夫が親子の絆も深めてきたことを実感できる保育運営のひとつとなりました。

前述したことから「保育」という乳幼児の命を預かる日々において、私たちは「これで安心」という安堵の節目がないほどに日々さまざまな課題を投げかけられる日々となっています。

現在つくば市内いづこも空前の保育士不足の中、令和 8 年度から義務付けられる新たな制度があります。こども家庭庁における「こども未来戦略」に基づき、全国の自治体において開始される「こども誰でも通園制度」です。配置する人出の確保への尽力はもちろん、これらを見据えた学びや予測される課題など、常に職員との連携を良くしながらその時を迎えなければならないと痛感しています。自園だけの工夫ではもはや瀬戸際となっているつくば市での保育士不足の押し寄せる中で、新たな事業への協力や実行をゆとりを持って迎えたいと考えます。では何が必要であるかを考えてみると、現場の職員のスキルがどんな保育の場面においてもオールマイティでなければならない時代を迎えるのだと痛感しています。研修での学び合いの効果が現場に行き渡るように、暗中模索の今年度でした。また次年度も同じように迎える課題であると痛感しています。「人と人」とのコミュニケーションを補う手段としての ICT 促進であり、当法人ならではのゆるがぬ保育の理念にそった一丸力を地域に向けて発信し続けた今年度でした。何はさておき「すべての関係者の幸せな時間への土台になりたい」と願いながらたゆまぬ尽力を続けることは法人としての大きな喜びです。明日への向上の希望を持ち続けたことが今日に繋がってきたことを実感できた 10 年の節目でした。改めて下記において今年度の活動を振り返ることとします。

＜在園家庭及び一時預かり利用家族の子育て支援を充実する＞

① 在園家庭への保育室開放（モンテしゃべり場）次年度に続く、子育て世帯との深い交流の機会となった。

日々子どもたちの保育の中でのモンテッソーリ教育の実践の様子を目の当たりにして頂きながら、園生活が子どもの主体的な生活リズムにそっていることをご理解頂き、自分のやりたいことを成し遂げた子どもたちの幸福感に満たされた姿を通して保護者の皆様にもご安心頂き幸せの連鎖を生む機会となっている。和気あいあいのティータイムもお楽しみのひとつである

② 保護者対象の子育て相談会の実施

参加者が相互に交流を図れるよう随時個々の子育て相談の場を取り入れるとともに、発達への支えとなる家庭での遊び方、遊ばせ方など子育てのヒントとなる情報を提供する。家庭での様子と保育園での姿から発達相談の必要性を感じた家庭においてはつくば市のこども未来課での発達巡回や教育委員会の就学児相談に橋渡しをするケースもある。こどもを抱えての悩みをみんなで分かち合い前向きにこどもの姿をとらえて頂けるようにしている。

・Zoom および各種イベントの工夫（当法人評議員藤ノ木様ボランティアご協力による）

家庭にいながらにしてモンテッソーリ教育の概論を理解したり、家庭生活に活かすためのヒントをお伝えした。また季節に応じてこの教育法を取り入れたゲーム遊びなどこどもの発達を理解し、心の絆を育むためのノウハウを楽しく提供している。

また今回はつくばブロック保育協議会とのコラボに寄り、在園児祖父である茨城県立こども病院名誉院長須磨崎医師による講演会（感染症対策）を行うことができた。



③ エディブルモンテッソーリを基礎としてこどもたちの家庭に提供する野菜や給食食材としての野菜を栽培する

畑で栽培できる野菜の年間計画を農業の知識の豊富な職員に学び、こどもたちと季節を辿りながら栽培した。種をまき、苗を植えるところからこどもも関わりその後観察を通して野菜への理解を深めた。「自分たちが耕した畑で育った野菜だ」という記憶と共に手にした時の幸福感がこどもの偏食を改善させさらに興味を深めることができた。



④ アグリイベント大盛況（収穫）

日頃子どもたちが大切に育てている野菜（小麦と大根）をご家族と収穫

・ 近隣住民の方や地域のお米屋さんがお届けくださった野菜を在園家庭へ提供

地域の方々や在園児祖父母様から手作りの野菜などをお預かりし給食やオヤツとして提供させて頂くことがあり交流深まる素敵な思い出です。

⑤ 在園児保護者の珈琲店による園とのコラボブレンドの実現

恒例となつてつくば市内では大人気珈琲店とのコラボ企画。当園職員のイラストを毎年パッケージにしてくださり、みんなで味わいました。



⑥ 松屋製麺所との食育コラボ企画

及び日ごろ人気店のため購入しにくいラーメンを園で販売代行

日本有数となった筑波山麓にある松屋製麺所様の麺はなかなか手に入にくいグルメとなりました。こどもたちの心を育むためにコロナ禍を超えて「松屋製麺所所長はじめ社員の皆様」が応援にお越し下さり食育企画で在園家庭と一緒に調理する段階からの驚きと喜びの企画を実行してくださいました。そして在園家庭からの要望にお応えし麺お販売を当園で代行することもできたのです。家庭で安心して「食」を楽しむ機会を提供できればという考えのもと、在園児用にオリジナル予約フォームを作成し事前に購入予約を取り、ラーメンの引き渡しを園で行いました。

・ 松屋製麺所所長による食育はいつも子供が主体です。



・ 今年度栽培の小麦は残念ながら製粉先が見つからず、断念。小麦粉を松屋さんがご提供下さりおやつ用最高のマフィンづくりとなりました。こどもたちが丁寧に慎重にやり遂げたのも松屋さんがきれいな動きをお見せくださったからです。またこの日の給食はみんな大好きラーメンでした。

⑦ 恒例となっている各種イベントは入園進級式でのパフォーマンス（アフタースクールとのコラボ企画あり）に始まり、七夕会、運動会、アグリイベント、ハロウィン、そしてトッポンファミリークリスマス会とすべてのイベントを健やかに執り行うことができました。日ごろお世話になっている地域の方や関係者様にもお声がけし一緒にお楽しみ頂きました。



⑧ シェイクアウト訓練への参加及び保護者への周知

離れていても心は一つ。パパママの安全を祈りながら、今できることに集中！防災用品なども紹介説明しました。

・一日お疲れ様、保護者と家路に着く在園家庭のためにイルミネーションを点灯

保護者にとってお迎えは我が子との絆を確認する最高の瞬間です。微笑を交わして家路につく皆様を応援します。



・シューフィット

シューフィッターの（ドイツの国家資格である整形外科靴技術者「シューゲゼレ」）を取得したストウ靴店須藤様による足の測定を実施した。サイズだけでなく足の形や歩行の状態をみて頂き保護者にお知らせしたところ、日頃の靴選びの際に助かっていると嬉しい声を頂いている。



・卒園生との交流

卒園生からは季節のお便りが届くことも多く卒園生の兄弟姉妹が引き続き園に在園しているケースも多いので、季節の節目のイベントなどには必ず声をかけともに楽しんでもらっている、

・地域の外国籍の方から母国料理のレシピを教えていただき保護者に園メールで配信

・外国籍子育て家庭に対して 個別に面談、メール等で相談に応じる。

・SNS を活用した情報発信

SNS を利用し、広く情報提供を行う。※SNS の掲載に関しては保護者が許容した個人情報範囲に応じて発信。

・園生活の写真の無償提供及び一斉メール

手書きの連絡帳とは別に毎日園長からのメッセージを一斉メールにて配信。また、子どもたちの一日の様子を毎日何百枚単位で無料で配信している。我が子の姿だけでなく、園全体の子どもたちの姿を園長からのメッセージや写真を通して毎日発信することで、我が子自身の育ちを柔軟な気持ちで見守るきっかけとなることを願い継続して取り組んでいる。また、園の教育活動や方針への理解を深めることで、見通しのある子育てを保護者と連携して取り組むことができている。また、一斉メールでは季節や伝統行事にちなんだ小話も紹介。

・給食の献立レシピの紹介

子どもたち自身が家庭で給食の味を喜んで家族に話すことも多く、保護者からレシピを知りたいという声も多くあがっていることから、定期的に給食のレシピを一斉メールで配信している。保護者からも喜びのお声を頂いているので、保育園と家庭を「食」を通してつなぐきっかけとなるよう継続していきたい。

* 地域のすべての子育て家庭への支援を充実する

・近隣子育て世帯や高齢者への声掛け

・近隣住民との日頃の挨拶と交流・就労継続支援B型施設ユーリエット様への支援活動

当園の近隣には高齢の方も多く園舎付近をお散歩しているお姿を多々お見掛けする。必ずお声がけし、当園のイベントなどにお誘いしご参加いただいている。地域の「つながり」をお感じいただき防災などにも役立てるような絆となっている

また今年度から在園児保護者が就労する「自立支援施設」のサポートとして在園家庭でのシフォンケーキ販売の場を提供した。在園家庭も直接当園玄関にてケーキ選びもできてとてもお喜び頂いた。

・地域の中学校に通う生徒たちへの待機場所の無償提供及び挨拶活動

中学生・高校生への声掛け励行。挨拶に始まり、登校時の友人同士の待ち合わせなど見かけた時に声掛けし、日ごろ言葉を交わすようにしている。生徒から挨拶してくれることも増えてきた。

・近隣小学校の登下校の見守り及び挨拶活動

栄小学校からかなり距離のある「古来地区」のこどもたちの集団登校が必ず当園前の道を通っている。卒園生や児童クラブ（アフター）の児童もあり、必ず朝の挨拶を交わしている。また体調不良の緊急時などに安心して保育園に助けを求めるケースもあり、小学生の安心感につながっている。

・近隣小学校利用者に対する一時的な駐車スペースの無償提供

小学校でのイベント時は小学校の駐車場を使用できないことも多く、そのような場合に

遠方から歩いてくることにお困りの方がいることを知り、利用者に支障のない時間帯等であれば駐車スペースを無償提供するようにしている。

・近隣住民の方が利用するゴミ捨て場周辺や隣接住宅であるご高齢の方のお宅の除草作業

園舎周辺は高齢者世帯であるため、熱中症が懸念される夏場は特に除草作業が困難となることから、園長、副園長が休日にボランティアで除草作業を行っている。

*** 保幼小接続連携活動**

・近隣桜幼稚園様のお誘いで年長児がともに桜幼稚園園庭にて遊んで交流をしたり、栄小学校、栗原との交流もあり合唱の交換、ゲームなどそれぞれ特色のある交流ができた。こども同士がお互いの姿をみて安心感を抱いたようである。また小学生のリーダーシップにより、小学校への具体的なイメージを持つことができた。

*** 職員の研修**

厚労省の定める人件費が発生するキャリアアップによる保育力の向上、子育て支援員資格取得、放課後児童支援員資格取得、茨城県保育協議会研修、同つくばブロック研修などほとんどが動画配信による実践となり、多くの職員を対象として参加を促すことができた。「働き方改革」の中、いかに学んで活かし、意欲に繋げていくかは大きな機会であり向上のための必須課題である。当園は一人一人の長い人生に寄与できるよう足元から先の日々に向けた学びに力を入れさせていただいた。

研修で学ぶ内容を実践力にどう結びつけるかが課題である。学んだことを自分なりに実際のこどもの姿に結びつけ消化しなければ学びとったものもすぐに失っていく。

会議の中で相当侃々諤々と保育論を展開したいところであるがなかなか連携が取れるほどには理解し協力し合うことができていない。

*** 職員の確保**

非常に厳しい雇用世相の中自ら当法人を探しあて、こども一人一人にスポット充てる当園の保育方針に共感をした新卒学生2名を雇用することができた。

その他看護師など複数名正規職員として雇用契約を交わしたが私事都合でわずか数日で退職という非常に無責任な人物との出会いとなり、改めて現代の雇用の難しさを感じている。

*** 苦情解決のうち報告すべき事項**

・令和6年度、苦情解決委員（第三者委員）への相談はありませんでした。

*** 事業報告まとめ**

保育園の運営の大きな柱はやはり「感染対策」にある。コロナ禍ほどの困難さはないものの、保育園は感染症のデパートと呼ばれ揶揄されるほどに防ぎ様がない。それでも少しでも保護者の就労の妨げにならない健康状態を育むために冒頭の「感染症対策」を励行している。また常に保護者に「集団生活」への理解を求めつつ、いかに協力体制を構築するかが要であると実感している。乳幼児期からの家庭への啓蒙によって、児童期という長い期間に渡り、こどもの体調に心を寄せて下さる大人が増えることを願って止まない。我が子同様、その仲間、全体のこどもたちの健やかさがあって自分の就労、そして人生が守られていることをみなで理解したい。また健やかな日々の節目としての大きなイベントが数々ある。現在体育館も市営の場所を借りし、保護者親戚の方々も安心してお集り頂けるような駐車場事情とはなっている。七夕会、クリスマス会は園舎にて行うため、未満児、以上児との時差式集合型で執り行っている。その他最大のイベントは「成長を祝う会」「巣立ちの会」である。自己肯定感に満ち晴れがましく成長しているこどもたちの姿をさまざまな演目発表の中でお感じ頂いている。こどもたちはもちろん、いずれの場合も集いあうことによって満たされる保護者としてのプライドや年間通して子育てを全うした自己肯定感など、それぞれが手にする喜びはまさに未来に向かう大きな足掛かりとなっている。実践し続けてきたモンテッソーリ教育を絆として大きな子育ての連帯が形成されてきたことを実感し、さらなる使命感を感じる場所である。黙々と日々を過ごし、いかなる時も仲間と手を携えた10年目のトッポンの歩みを振り返りつつ今年度のご報告とさせていただきます。

個々にご報告した事業はまだまだ一部であり、最も重要なことは日々の歩みにあります。こどもと保育者、保育者と保護者、そして地域へ。つながりの中こそその社会福祉事業の実現です。すべての時間が明日への糧となりますようにさらなる尽力をお約束いたします。

<令和6年度の総括「つくばモンテッソーリアフタースクール」>

今年度も基本的には栄小学校児童を対象とした歩みとなりました。

小集団であればこそ、一人一人と向かい合い、下校後の生活を安定し、こども同士のコミュニケーションを豊かにすることができました。

児童は放課後の時間をリラックスしながらも明日への学習意欲につながる生活を心がけています。長期休暇にはできるだけそれぞれが課題を選び「調べ学習」などへの手順

が身につくように見守り指導しています。生活・学習のリズムを各々の児童が自分に合ったペースを身に着けられるようアドバイスし、実践しているので、学校生活にも良い影響があり、円滑に通学している。

アフター敷地隣接地には夏野菜はじめ、児童が体験学習のできる畑が広がり、共に野菜の管理をしたり、収穫をして喜びを分かち合うことができたのです。

また日頃より遊びと共に安定した学習習慣にも力を入れているが、今年度は新たな試みとして長期休暇にはこどもたちの希望を取り上げ「漢検」などの検定にも挑戦できました。自分の挑戦した検定級を満点で制覇した児童も出て、皆のさらなる意欲につながっています。まさに児童クラブはこどもの居場所であり、拠り所です。

在籍する児童たちは1年生から6年生までの縦割り環境として関わりあい、コミュニケーション力を豊かに育んでいます。

担当職員は高度なスキルが求められ、研修も動画配信で学べるようになっているので必ず聴講し、学んだ情報を職員で共有し、即戦力として活かせるよう、お互いに声掛け、必ずこどもの変化を見過ごさずに共有しながら過ごしている。

担当職員はいずれも放課後児童支援員、小中学校教育経験者であり、異年齢縦割りの児童に多岐にわたる活動体験を果たすことのできるかけがえのない存在である。

昨年度に続き、今年度も卒業生を出し、暖かな交流の中巣立ちの会を催すこともできました。2年続きで私立中学への進学を果たし、当クラブでの居場所の安定した着実な日々の結果として児童の希望がかなったことは在園児童にとっても心の励みとなったのです。季節ごとのイベントなども併設される保育園でのプレゼンテーションはじめ、児童は自分のできることを発揮して協力しているので、計画し、発表するまでのプロセスを全部自分たちで工夫し、さらに大勢を前にプレゼンテーションする能力も獲得し、他者への奉仕の気持ちを育くむことができました。児童は成長とともに、多くの価値観も育ち、学校や家庭などでの多様性の中、揺れ動きながらも課題を解決するために模索する児童の姿があります。どの子も懸命に自分に与えられた日々を当クラブでの円満な日々を拠り所として生きています。より良く生きています。その心のよりどころを失わないよう、日々の姿をよく観察し、変化を捉えながら、適切なアプローチを心がけて行きたいと思っています。社会福祉法人の運営だからこそ対応できる家庭への寄り添いを中心にこども達と共に歩む場でありたいと願います。健やかな学校生活が円滑に続くよう、当クラブではこどもたちにリラックスした時間を提供し、児童一人一人が歩む長い自立に向かう道のりをその心に寄り添い、支えたいと考えます。